

## 教職員人事異動

～本年度末をもって帰任・退職・休職する教職員です～

### <帰任>

文部科学省在外教育施設派遣教員 三杉 賢太朗 教頭

2010年4月から3年間、大変お世話になりました。子ども達の素直さ、保護者の方の熱心さ、先生方・事務職員の方々のひたむきさ、お二人の校長先生の情熱に支えられ、何とか任期を全うできたように思います。ボストン日本語学校では、日本にいるときは考えもしなかった海外での教育について、たくさん学ばせていただきました。また日本の学校と海外の補習授業校、課題はそれぞれ違えども、「学ぶこと」「教えること」の基本は、同じであることを心から実感することができました。郷土である福島県で、学んだことを生かすことこそ皆さんへの恩返しと信じ、これからも頑張っていきます。いつの日かまたお会いしましょう！

### <退職>

小学部1年4組 辻 久美子 先生

日米において教育に携わって参りましたが、対象は大学生でした。ですから、5年前に初めて1年4組の教室に入り、元気いっぱいの子供たちと対面した時の“衝撃”は今でもはっきりと覚えています。その後、5年に渡り1年4組の担任をさせていただきましたが、初等教育という新しい分野で5年間続けることができましたのも、皆様の御指導と御協力のおかげと、心より感謝しております。

この5年間に得た多くの学びと経験を糧に、これからも教育と研究活動に精進して参りたいと思います。最後に、子供たちの笑顔は私のエネルギー源でした。みんな、どうもありがとう！

### <休職>

小学部2年2組 藤井 ちなつ 先生

朝、日本語学校の廊下で出会うと、「おはようございますっ!」と明るくあいさつを交わし合う。私は、この土曜日の元気に満ちた朝がとても好きでした。貴重な週末を返上して、毎週通う子ども達やそれを支える保護者の皆様、そして同僚教職員の頑張る姿を見ると、「みんな頑張っているのだから、私もまだまだいけるぞ!」と何度も勇気づけられました。この頑張りと元気に溢れる日本語学校は、私のエネルギーの源でした。

今回、仕事との日程が合わず、休職させていただきますが、この日本語学校で頑張っておられる皆様のことを忘れず、また、私自身が他の誰かのエネルギーの源となれるよう、明るい声での「グッドモーニング!」を心がけていきます。皆様との素晴らしい出会いに感謝いたします。9年間、ありがとうございました!

小学部3年4組 ポイスター 一代 先生

この度、一身上の都合で休職させていただくことになりました。

家族で日本の学校で勉強するような貴重な体験をすることができ、とても有意義な日々でした。

一旦休職させていただきますが、またいつの日か日本語学校で皆様と一緒に勉強できる日を楽しみにしております。

## 中学部1年1組 市瀬 世里子 先生

残念ですが、4月から休職させていただきます。中学1年生は、現地校での勉強や活動が急に忙しくなる時期ですが、日本語学校へ元気に通ってくる生徒達の笑顔は、私の楽しみであり励みでした。クラスで積極的に発言したり、グループ活動で協力し合う姿を見ていて、日米の教育環境で育っている皆さんは本当に頼もしいと思いました。これからも自信を持って、頑張ってください。ご支援いただきました保護者の皆様、学校関係者の皆様にも深くお礼申し上げます。

## 高校部1年 佐藤 瑞絵 先生

ここで過ごした生徒との日々は、私にとってとても大切な思い出となりました。卒業生の近況を耳にするたびに、彼らの成長・活躍を楽しみにしています。お世話になりました保護者の皆様にはとても感謝しております。本当にありがとうございました。

## 高校部2年 久保田 孝 先生

他の仕事が忙しくなり、このたびしばらく休職させていただくことにしました。ここ2年間、高校生を担当させていただきましたが、この中から将来世界を舞台に活躍してくれる生徒がたくさん出てくることを夢見ると、毎週楽しくてしかたがありませんでした。素直でまっすぐな生徒達からは多くの希望と感動をもらいました。そんな機会を与えてくれた日本語学校、ご指導をいただいた先生方、支援していただいた事務所の方々、そして素晴らしい生徒達を託して下さった保護者の皆様に心から感謝致します。ありがとうございました。

## 日本語部2 高橋 裕子 先生

学校で教えることは初めての経験で、毎週新しい発見ばかりでした。日本語部、他の先生方そして保護者の皆様に助けられ心より感謝しております。生徒達と楽しく日本語を勉強することができました。この度は仕事の都合で休職することとなりました。どうもありがとうございました。

## 日本語部4 マクファーソン 苗美 先生

日本語部の発表会が無事終わった日、この8年間に日本語学校で出会った子供達のことを思い出していました。「なぜ土曜日に日本語学校に？」という疑問をもつ生徒と「日本に興味があるから日本語を学びたい」という目的をもって通う生徒が同じ教室で学ぶ環境の中、様々な家庭環境に育つ生徒一人一人に何ができるのかということが、この学校の教員としてずっと考えてきたことでした。そしてこの課題は、今後も「継承語教育」という枠の中で考え続けていきたいことの一つです。休職するのは大変残念ですが、今後もポスト日本語学校が、一人でも多くの子供や家庭にとって有意義な存在となっていくことを心から願っています。先生方、保護者および事務の皆様、様々なサポートをありがとうございました。

